

日常の中の清澄。
和に住まう贅沢。

白い和紙を越えてこちらに届くのは、やわらかく穏やかな明かり。
障子は、まばゆいばかりの光さえ包みこみ癒してしまふのでしよう。
その明かりの中にいる、ただそれだけで気持ちがおほのり。
そして、すがしく薫る青畳、
懐かしい山河を配した襖絵に心洗われる気がして。
深いくつろぎの中にあって、厳肅ささえ感じさせる和の空間。
ここには、居住まいを整えたくなる清澄な時が流れています。

受け継がれてきた日本の心がここに。

